



## 「絵本とわらべうたの会」2026 年度⑥

日 時 10月6日(火) 10:00~11:00  
場 所 西公民館 1階 集会室  
定 員 15組

就園前のこどもとお母さんを対象にわらべうたと絵本の読み聞かせで楽しいひとときを過ごします。  
やさしい言葉とゆったりしたリズムで、顔あそび、手あそび、くすぐりあそびなど、親子で触れ合って楽しめます。

## 市民読書サポーターのいる日程 10月

|                                  |        |        |
|----------------------------------|--------|--------|
| 市立中央<br>図書館<br>(10:00~<br>12:00) | 3日(土)  | 10日(土) |
|                                  | 18日(日) | 24日(土) |
|                                  | 31日(土) |        |

## ふじのみや子どもの本のセミナー 斎藤惇夫氏の講演

9月12日(土)、児童文学作家の斎藤惇夫さんをお迎えして、「ふじのみや子どもの本のセミナー(全6回)」が始まりました。斎藤さんは『母の友』に富士宮の本のリスト『おもしろい本みつけた』を紹介してくださり、このリストが20年以上たった今も、版を重ね活用され続けていることを高く評価してくださっています。富士宮には7回来ていただきましたが、今回は「絵本とは何か?」の演題でこどもたちにとってなぜ絵本が大切なのか、成長とどう関わっているのか、どんな絵本を選び、どう読んでやったらよいかを6回にわたりお話くださいます。

午前中は、AI や情報教育の推進が叫ばれ、自然体験や人との関わりが希薄になっている中で本離れが進み、読む力や書く力が弱まっている今だからこそ、こどもにとって本がどんなに大事かということを斎藤さんの読書体験を通して話されました。

祖母が語ってくれた昔話の体験が幸せなうれしい時間だったこと、父親の持っていた『グリムの昔話』を母親に読み聞かせしてもらったこと、小学校では担任の先生が本を毎日読んでくれて、特に『ドリトル先生アフリカゆき』に影響を受け、アフリカへの思いや、動物と人間の関係の基本を学んだこと、学校の司書の先生からは、出たばかりの岩波少年文庫を次々に紹介され、野球少年だった斎藤さんも本を手にしてしたこと、初めて最初から最後まで自分で読んだ『ふたりのロッテ』は、こども中心の世界が描かれていることに引き込まれ、民主主義の基本を教わったこと、自分の出会った物語が人生の最も大切な問題を具体的にわかりやすく、実体験と同じように体験させてくれ、それらが歓びに満ちたものであったことなど、そんなこども時代の読書体験が今の斎藤さんのこどもへの思いや絵本への思いを支えているのだと感じました。

午後は、本を生涯の友とすることも育てるために、「生きる歓びを子どもたちと共有するための十章」を示し、こどもたちが“うれしくって楽しくなっちゃう”絵本を、心を込めて読んでやって欲しいと話され、

『よあけ』と『チムとゆうかなんせんちょうさん』を読んでくださいました。(市民読書サポーター 若林清美)



『ドリトル先生アフリカゆき』  
『ふたりのロッテ』  
(岩波少年文庫)



『よあけ』  
『チムとゆうかなんせんちょうさん』  
(福音館書店)